

2024年8月号をお届けします。連日の猛暑で38℃を超えても驚かなくなり、太陽にじりじり照りつけられると、やがて人類は地球上で焼かれてしまうのではないかという妄想さえ頭をよぎります。カルフォルニアに留学中、Death Valleyでは夏には50℃を超えとか、Las Vegasでも車のボンネットで卵焼きができると聞いたことがあります。日本もいずれそうなりはしないかと、秋の到来が待ち遠しい日々です。

さて、本号の特集は「腸内細菌叢」です。最近、商業ベースでの腸内細菌叢検査サービス会社が増えつつあり、便検体を送ると「あなたの腸内細菌叢と健康について」のレポートが送られてきます。ただ、まだ科学的根拠に乏しいのが現状のようです。本号では腸内細菌叢について、「実際のところ何が重要なのか」について最近の医学的知見を概説いただきました。

「小児期の腸内細菌叢の形成」では、胎児期から成人までの腸内細菌叢の変遷と、それに影響を及ぼす因子について述べられています。「小児における腸内細菌叢の特性および肥満や運動習慣との関係」では、肥満との関連は認められなかったが、年少時期の運動習慣との関連が示唆されています。「アレルギー発症予防を目的とした腸内細菌叢への介入」では、腸内細菌叢とアレルギーの関連はあるものの、治療介入までは至っていないこと、「肥満と腸内細菌叢」では、肥満ややせとの関連を示す多くの研究があるものの、確立した治療介入法には至っていないことが述べられています。「小児の特発性ネフローゼ症候群における腸腎連関」でも小児のネフローゼ症候群と腸内細菌叢の関係について述べら

れています。「造血幹細胞移植における腸内細菌叢の重要性」では、移植片対宿主病における腸内細菌叢の重要性について、「周産期母体腸内細菌叢の経代的機能」では、母や父の腸内細菌叢は彼ら自身の精神状態に影響を及ぼすのみでなく、児の腸内細菌叢、さらに児の精神発達にも影響があることが解説されています。「小児手術後の腸内細菌叢の変化と対策」では、小児消化管手術後の腸内細菌叢の乱れに対する著者らの治療経験や、糞便移植など今後の治療可能性について述べられています。「腸内細菌叢解析からみた食事の重要性」では、重症患児の食事摂取法と腸内細菌叢の関連について、著者らのデータを含めた研究の紹介がなされています。

特集以外にも「総説」では長時間作用型ヒト成長ホルモンアナログ製剤、「社会小児科学」では新生児里親委託についての論文が載っています。「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から呼吸器に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した内容になっていますので、ご一読下さいますようお願いいたします。

最後になりましたが、本誌の編集委員であられました日本医科大学小児科の伊藤保彦先生がご逝去されました。急な訃報に、編集委員一同、驚くとともに深い悲しみに包まれています。先生は編集会議ではいつも幅広いジャンルにわたって企画をなされ、深い造詣に尊敬しておりました。心からの哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第65巻 第8号 8月号

2024年8月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 48,950 円（本体 44,500 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料で〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。